




# 地域活力の向上に関する事業 (東南海地震の備えは経験値の違い)

## 助け合い「水」の給水体験



給水体験をとうして、仲間を思う助け合いが、財産となる  
霞ヶ丘自治会

# 霞ヶ丘自治会の現状

東海大地震直後に余震が起きる油断できない状況下で、霞ヶ丘の町民は桜ヶ丘給水場まで給水に行く事が可能であるのか？

- ・丘陵地に位置する霞ヶ丘の地形上、桜ヶ丘給水場までの行路は大変。
- ・道も狭く、地震直後は通常通行ができなくなる心配あり。

よって、「**生きるための水**」のありがたさを分かち合い理解する必要がある。

霞ヶ丘自治会は、飲料水に着目しました。

★今までの歩・・・ハードの整備

これからは心のソフト積み上げ

1年目:消火器配備の町

2年目:防災倉庫設置

3年目:防災ボランティア結成・自主訓練

# 令和5年第2回霞ヶ丘自主防災訓練の概要

昨年度の第1回霞ヶ丘自主防災訓練の更なる構築を図り、防災事業そのものが霞ヶ丘町内会に根付くものになるよう**防災委員会**が中心となり、町内会民意のもとで活動を促進していきます。

→ **今年度は「水」をテーマとします。**

地震大国の日本では、30年以内に大規模な地震が発生すると言われています。地震によってインフラが完全に停止してしまうと、生活することが困難となります。特に水を確保するのが難しくなるため、防災用品以外にも保存水を確保することは、人間が生き延びるために重要なものです。

日常生活で**水**はいつでも使えるものです。1日にどれぐらいの水を消費しているでしょうか？成人男性を例に挙げると、1日で摂取している水の量は平均2リットルから3リットルとされています。また飲料水だけでなく、生活用水も含めると1日で約250リットルを消費していると言われています。災害時は水の確保が難しくなり、飲料水が確保できないこともあります。よって、「**水**」の大切さを改めてよく知っていただく機会として、防災訓練に取り組みたいと考えています。

# 自主防災訓練の手順

## 飲料水を一時避難所から自宅まで6ℓを運ぶ体験を企画



- ・白鳳連合防災訓練（令和5年10月1日）9時30分震度5地震発生。安否札を自宅に掲示。
- ・各町内会の防災倉庫前受付で給水袋と参加報告書を配布。
- ・一次避難所を防災本部として、給水車による**水**の配給体験。

➔ **活動状況をドローンで撮影。参加者50%を目標。**

※事前申し込みで、20ℓタンク運搬体験実施。（先着40名、車での利用は不可）

- ・**給水袋**を背負い、帰宅して安否札を外す。
- ・参加報告書からご意見を募り、班長に提出、後日、御礼の防災品受領。

➔ **効果の検証を行い、次年度の施策に繋げる。**

➔ **非会員の方々も参加募集して、自治会募集のきっかけとする**

### ★昨年度参加者集計

安否札訓練参加率 **約70%**（連合1位）、霞ヶ丘自主防災訓練参加率 **約40%**

背負える重さに調整可能



## 活動予算について

①事前準備 給水体験モニター登録 いずれかを選択 容器は差し上げます

1. 霞ヶ丘防災本部の名前付き給水パック 1世帯2袋まで 12リッター約1000円
2. 20リッターポリタンク運搬 1世帯1つ=20リッター 約1000円

全て、体験レポートを提出する事が条件です

想定数 50%で180世帯 13万円

### 3. 非会員用は給水パックのみ（市役所提供品を使用）

②体験レポート 班長に提出 後日 御礼品 A と レポートまとめをお届け  
記念品 9万円

申請額 総額22万円（うち助成金10万を想定）

◎狙い・・・一時避難場所を覚えてもらう・水の運搬体験（自己備蓄の必要性理解）

ボランティアスタッフの模擬体験・防災ドローン訓練・市役所上水道課との連携

**非会員のお宅にも参加依頼を行い、会員募集のきっかけづくり、地域一体運動として定着させる**

# 生活水の確保と今後の課題

## 霞ヶ丘の丘陵地を生かした工夫

管内の防火貯水槽・・・活用協議、給水機対応など課題

霞ヶ丘線余剰地に**生活水「井戸」**の建設要望提案 → 公助要請

- ・候補地として南町防災倉庫の横の余剰地、中町防災倉庫近くの余剰地。
- ・井戸水を利用者の調査。
- ・簡易浄水機器の備蓄。
- ・清水の湧く場所の情報収集。
- ・一次避難所への給水車配備。
- ・一次避難所に給水設備設置。
- ・耐震化されていない水道管の更新工事の要請。

